

## 第1回 大阪市在宅医療・介護連携推進会議での主な意見及び本市の対応

委員名	主な意見	ご意見に対する本市の対応
立石委員	地域課題の把握に当たって、地域包括支援センターが地域課題をだしているの、連携が必要ではないか。	区役所に様々な機関の資源を活用するよう情報提供していく。
濱田委員	取組表の全体会議にかかる参加者（地域）について、全ての項目で2桁になるように努力してもらいたい。	各区の状況の情報提供をするなど、会議に様々な機関が参画できるように促進してまいりたい。
中尾委員	サービス付き高齢者住宅の把握のノウハウについて、区に提供してほしい。そこでの在宅医療サービスのないようについても把握されてはどうか。	サービス付き高齢者住宅について、福祉局で毎月、ホームページに情報を掲載している。当該情報にて、把握できることを区役所に情報提供していく。 <a href="http://www.city.osaka.lg.jp/fukushi/page/0000307697.html">http://www.city.osaka.lg.jp/fukushi/page/0000307697.html</a>
立石委員	どこへ向かい、どこを目標とするのか挙がらないといけない。	区役所の状況把握について工夫をしつつ、課題整理を図ってまいりたい。
濱田委員	対応策の今後の見込を分類していくと今後に発展するのではないか	
岸本委員	大阪府では、「退院調整カンファレンス」の在り方構築モデル事業に取り組んでいるが、大阪市ではそのような動きはあるか。	市独自の取り組みはありませんが、現在、大阪府と情報共有しております。
立石委員	資料の作成において、一つの意見を全体の意見のようにならないように気をつけてほしい。	分かりやすい資料の作成について工夫していく。
立石委員	区役所の職員への研修を強化してほしい。	区役所の実務者研修を引き続き行っていく。また、次年度は初任者研修を追加してく予定である。